大雪山トレイルジャーニー　開催報告書

2026 年 7 月 26 日（日）開催

開催日：2026 年 7 月 26 日（日）

種　目：トレイルランニング　（山岳マラソン）

カテゴリー：60km、40km、15km

参加人数：505 名

場所：北大雪山スキー場 およびその周辺山域

主　催：大雪山トレイルジャーニー実行委員会

後　援：遠軽町、旭川市、えんがる町観光協会、大雪カムイミンタラ DMO、北海道新聞遠軽支局

協　賛：小鍛冶組、渡辺組、MURASAKI SPORTS、SPORTS DEPO、大泉長生館

協　力：矢木組、アトリエたねまき、旭川医科大学、白滝山岳会、旭川山岳会、東川日本語学校、北海道大雪地域アクティビティセンター、えづらファーム、NAKAFURANO BREWERY、LAZY SUNDAY,トゥリリアム・オカダ・ファーム、林野庁網走西部森林管理署、大同産業開発、鈴木商会

企　画：EZO TRAIL

参加者概要

種目	登録	欠場	出走	出走率	棄権	完走	完走率
60km	139	11	128	92.1%	15	113	88.3%
40km	229	20	209	91.3%	7	202	96.7%
15km	137	11	126	92.0%	0	126	100.0%
全体	505	42	463	91.7%	22	441	95.2%

大雪山トレイルジャーニー2026 を無事に開催することができました。昨年の参加者」380名から約 100 名が増え、登録 505 名、出走 463 名と大きく参加者が増えました。
大雪山の自然を楽しむことができるイベントとして周知されたことや、参加者ツアーによって　参加しやすくなったこと、またトレイルランニングを新しく始める方が増えたことも後押ししたと考えています。

日本全国からご参加いただき、外国籍のランナーも多くご参加いただきました。2026 年は冷涼な気温、穏やかな風のもと、行うことができ、大きな事故や怪我もなく終えることが出来ました。

当日会場では、キッチンカー、出展ブースも多数お呼びさせていただき、走るだけではなく、イベントとしても楽しんでいただくことができました。

環境への取り組みとして、事前/事後モニタリング企画、クリーンアップ企画、宣誓書 DL 前の環境ムービー視聴などを通じ、大雪山の自然環境への理解をランナーの皆様に深めていただきました。国立公園の特別保護区という、最も自然保護の厳しいエリアで開催するレースだからこその体験として、「自然を知る、学ぶ」という体験をしていただきたいという思いで実施いたしました。ランナーアンケートでは概ね前向きな回答をいただいており、走るだけでは気づかなかった自然の尊さを感じていただく機会を作ることが出来ました。

大会の開催にあたりまして、多くの皆様にご理解・ご協力をいただきました。地域の皆様、自治体の皆様、ボランティアの皆様、協賛、協力いただいた皆さま、林野庁、環境省の皆様、関わっていただいた全ての皆様の尽力のおかげでこのイベントを安全に終えることが出来ました。改めて感謝申し上げます。

｜ツアー開催

実行委員会主催のバスツアーを実施し、29 名が参加しました。宿泊・移動・大会参加をひとつにまとめることで、遠方および海外からの参加のハードルを下げることを狙いとしています。

参加者からは、ツアーの夕食の場でボランティアと交流できたことを評価する声が寄せられました。移動手段の提供にとどまらず、地域や運営との接点をつくる企画として機能しています。

｜出店ブース

ゴールエリアに、地域事業者を中心とした出店ブースを設けました。走ることに加え、大会を一日過ごせるイベントとして楽しんでいただくことを目的としています。

出店者	内容
NAKAFURANO BREWERY	クラフトビール（中富良野）
どこでもカフェ〜♪	コーヒー（北海道各地の山を軸に活動）
Lazy Sunday	おにぎり・アルコール類（遠軽町）
トゥリリアム･オカダ･ファーム	地元牧場の牛乳を使ったソフトクリーム・シェイク（北大雪山麓）
大同産業開発	うどん・そば・生ビール（白滝地元団体）
大泉長生館	治療院によるボディケア
林野庁	リーフアート
MERRELL	シューズ試し履き
ムラサキスポーツ	リラックスシューズ試し履き・販売
遠軽町特産品販売	ジビエジンギスカン、黒曜ルージュ（赤ワイン）、遠軽じゃがいも

地元の食材・特産品を扱う出店が複数入ったことで、参加者が大雪山の自然だけでなく、地域の産品に触れる機会となりました。ランナーアンケートでも、地元の食材への言及が複数寄せられています。

｜環境企画

本大会は、国立公園の特別保護区という、日本で最も自然保護の要請が厳しいエリアで開催しています。この条件を制約としてではなく、大会の価値そのものとして位置づけ、サステイナブルパートナーである株式会社小鍛冶組のご協力のもと、以下の企画を実施しました。

■ 環境ムービーと宣誓書（新規）

2026 年の新しい取り組みとして、環境保全に関する動画を視聴し、宣誓書を提出した方でなければゼッケンを受け取れない仕組みを導入しました。
動画では、大雪山の高山植生の希少性、登山道を外れて走ることの影響、ストックキャップ装着の必要性、ヒグマとの共生、ゴミが野生動物に与える影響を扱い、最後に宣誓書のダウンロードへ接続する構成としました。

項目	結果
動画の視聴率	98.0%（197 名中 193 名が「視聴した」と回答）
自然環境・保全活動への関心の変化	5 段階平均 3.97／「4 以上」が 71%
自然環境を学ぶ機会がもっとあるとよいか	5 段階平均 4.41／「4 以上」が 87%

視聴を任意とせず、ゼッケン受け取りの要件としたことで、ほぼ全参加者に届けることができました。参加者からは、この仕組みの設計自体を評価する声が寄せられています。

「動画視聴完了後に誓約書がダウンロードされる仕組みは、履修効果として非常に優れた方法である。写真や文書で見るだけではイメージできない要素も多いなか、丁寧に作られた動画での啓蒙は、参加者が我がこととして捉えるために有効」（60km 参加者）

「いろんな大会に参加しているが、ここまでの取り組みがされている大会は初めてだった」（60km 参加者）

走ることに加え、自然環境について知り、学ぶこと。これがトレイルランニングの新しい価値として参加者に受け入れられたと考えています。

▲HP にランディングページを設置

▲動画試聴がゼッケン受け取り要件に

■ モニタリング企画（事前・事後）Presented by 小鍛冶組

大会前後に登山道モニタリング（植生調査）を実施しました。環境省の指示に基づく植生調査の一環であり、大会がコースに与えた影響を実測して次年度の運営に反映することを目的としています。

回	実施日
事前モニタリング	2026 年 7 月 21 日（月・祝）　参加者 3 名
事後モニタリング	2026 年 8 月 2 日（日）参加者 4 名

参加者合計 7 名

ランナーおよび一般の方が参加できる形とし、参加者には小鍛冶組様より謝礼を進呈しました。走るだけの関わりにとどまらず、フィールドの状態を自らの目で確かめる機会を提供しています。

■ ランナークリーンアップ Presented by 小鍛冶組

大会中に生じたゴミの持ち帰りを促す企画を実施しました。参加者からは「拾うゴミが見当たらないほど良い環境だった」「ゴミを拾って QUO カードをもらえるのはすごい」との報告や反響もあり、コース上の状態は良好に保たれました。

■ 歩行区間の設定

環境がとくにデリケートな特別保護区を「歩行区間」として設定し、通過時間を一律 40 分としてレースタイムに算入する方式を採りました。時間を競う必要がないため、参加者は自然を観察しながら通過できます。

この方式は競技上の不公平感を生まず、参加者からは「ご褒美タイム」「時間を気にせず大雪山を楽しめる時間が良かった」といった評価が複数寄せられました。歩行区間でのコマクサの群落について具体的に言及した回答もありました。

■ 課題：多言語対応

環境ムービーの英語対応は YouTube の自動翻訳に依拠しており、海外からの参加者には意図が十分に伝わっていない可能性があります。日本と欧米では登山道の利用に関する考え方が異なるため（分散させる／一本道に集約する）、この差異を正確に伝えることは安全面・保全面の双方で重要です。次年度は英語字幕の作成を課題とします。

｜広報

▶ポスター200 枚を作成し、およそ 150 箇所に掲示
　道内のスポーツショップ、体育館、道の駅、観光案内所、宿泊施設等に加え、全国の専門店へ郵送により配布しました。

▶チラシ 5,000 枚を作成し、道内各所で配布

▶Instagram とホームページで情報を発信
　HP：https://ezotrail.net/
　Instagram：https://www.instagram.com/ezo.trail/
▶Instagram 広告を 4 月から実施しました。

広報の成果として、参加者は前年の 380 名から 505 名へと約 100 名増加しました。日本全国からの参加に加え、スペイン、台湾、韓国、オランダ、フランス、フィリピン、英国、香港など複数の国籍のランナーが出走しています。

｜協賛企業プロモーション

協賛各社に対し、以下の露出機会を提供しました。

・会場内バナー設置（エアゲート含む）
・のぼり設置
・ゼッケンへのロゴ掲載
・ブース出店
・参加者へのクーポン・サンプル配布
・場内アナウンスおよびゴールテープでの掲出

DAISETSUZAN TRAIL JOURNEY
EZO TRAIL
MERRELL
SPORTS DEPO

MERRELL
SPORTS DEPO

MERRELL
EZO TRAIL

MERRELL

MERRELL

MERRELL

｜ランナーアンケート結果

大会終了後にランナーアンケートを実施し、197 件の回答を得ました。出走者 463 名に対する回答率は約 43%です。

■ 回答者の内訳

カテゴリー	回答数
40km	94
60km	64
15km	40
その他・応援	1

■ 項目別満足度（5 段階評価）

項目	平均	「4 以上」の割合
総合満足度	4.66	96%
制限時間	4.69	92%
開催時間帯	4.57	91%
コース	4.50	89%
事前連絡	4.41	86%
計測・ゴール地点	4.39	83%
場所・アクセス	4.23	80%
参加賞・ゴールメダル	4.20	77%
価格	4.10	73%
エイド	4.06	70%
ゴール地点での出展	4.05	74%

総合満足度は 4.66 と高く、96%が 4 以上を選択しました。推奨度（友人・知人への紹介意向、10 点満点）は平均 8.75 で、9 点以上が 60%を占めています。
項目別に見ると、制限時間・開催時間帯・コースが高く、エイドと出展が相対的に低い結果となりました。この 2 項目は自由記述でも要望が集中しており、次年度の重点改善領域と位置づけます。

■ 環境企画をきっかけに今後取り入れたいこと（複数回答／n=197）

項目	回答数	割合
日常生活でごみを減らす、環境に配慮した行動を意識する	122	62%
登山道や自然エリアの清掃・ゴミ拾い活動に参加する	106	54%
家族や友人と自然環境について話す機会を増やす	71	36%
環境保全団体への寄付や支援を行う	36	18%
SNS 等で自然保護の取り組みについて発信する	29	15%
特に変わらない	12	6%

「特に変わらない」は 6%にとどまり、9 割以上が何らかの行動意向を示しました。とくに「清掃・ゴミ拾い活動への参加」を 54%が挙げている点は、大会が実際の保全活動への入口として機能しうることを示しています。次年度のモニタリング企画・クリーンアップ企画の参加者募集につなげます。

■ 自由記述の傾向

自由記述には、環境に関する設問で 94 件、全体に関する設問で 133 件の回答が寄せられました。主なテーマごとの言及件数は以下のとおりです（好意的な言及と要望の双方を含みます）。

テーマ	言及件数	内容の傾向
エイド	47	好評と増強要望が併存。後半区間の給水に要望が集中
スタッフ・ボランティア	31	ほぼすべてが好意的。最も多く言及されたテーマ
トイレ	21	ほぼすべてが増設要望
景色・稜線	21	すべて好意的。平山からの稜線への言及が中心
事前情報・案内	20	改善を評価する声と、情報量が多く分かりにくいとの指摘が併存
環境ムービー・宣誓書	17	ほぼすべてが好意的
歩行区間	16	ほぼすべてが好意的
ゴール後の飲食	11	うどん・そばの復活要望が中心

評価いただいた点

最も多く言及されたのはスタッフ・ボランティアの対応でした。「他のレースよりも運営全体・ボランティアの雰囲気が温かい」「エイドで声をかけられて元気が出た」など、具体的な場面を挙げた記述が目立ちます。

景観については平山からの稜線への言及が集中しました。コース整備（笹刈り等）の存在に気づき、感謝を表明する回答も複数ありました。また、完走メダルについて「既製のメダルよりも何倍も嬉しかった」との声が寄せられています。

改善のご要望

要望はエイドとトイレが多くあがりました。エイドについては、最終エイド（WS3／CP4）に水しかなくスポーツドリンクがほしかったという指摘、および 40km の 30〜40km 区間にエイドをもう一つ設けてほしいという要望が複数寄せられています。トイレについては、本部・コース途中とも増設要望が中心で、受付時間帯に照明が点かない点、携帯トイレ用ブースの必要性も挙げられました。

このほか、ゴール後のうどん・そばの復活、事前情報の導線整理、後方ランナーへのエイド食（スイカ等）の確保、Web 完走証の発行などが挙げられています。

｜次年度に向けた課題

優先度	課題	対応の方向
A	トイレの不足	台数増設の見積取得、本部エリアの照明確保、携帯トイレブースの設置
A	後半区間の給水・補給	最終エイドへのスポーツドリンク配備、搬送方法の見直し
A	関係者のルール遵守徹底	全関係者へのストックキャップ配布
A	環境ムービーの英語対応	自動翻訳から英語字幕の自作へ切り替え
B	ゴール後の飲食	うどん・そば提供の再開検討、ゴール直後の水の確保
B	事前情報の導線整理	「参加者がやることリスト」を 1 ページに集約し、各詳細へリンク
B	エイド食の数量管理	カテゴリ別通過想定人数から逆算し、後方ランナー分を別枠で確保
B	宿泊者向け朝食	量・味付けの調整、または各自事前調達の明示的な告知
C	Web 完走証・タイム表示	発行方法の検討、ゴール地点へのタイムボード設置
C	安全告知の拡充	藪漕ぎ区間での肌の露出、ダニ等のリスク告知
C	更衣・シャワー環境	更衣ブースの床対策、シャワー利用案内の掲示

｜総括

大雪山トレイルジャーニー2026 は、参加者 505 名、出走 463 名、完走 441 名（全体完走率 95.2%）という結果で、大きな事故・怪我なく終えることができました。前年は雨の影響で山岳パートを実施できませんでしたが、本年は天候に恵まれ、予定していたルートで全種目を実施することが出来ました。

地域との共生、自然環境との共生、トレイルランニングを通じた新しい付加価値を生むことが出来ないかと、様々なチャレンジを行いました。
本年の最大の成果は、環境ムービーの視聴と宣誓書の提出をゼッケン受け取りの要件とした点にあります。視聴率 98.0%を達成し、参加者の 9 割以上が何らかの行動意向を示しました。「ここまで行っている大会はない」「これがスタンダードになればいい」といった声に表れているとおり、走ることに加えて自然環境について知り、学ぶことが参加者に期待されていることが確認できました。この稀有な自然環境でトレイルランニングを行うからこその新しい価値を提示できたと考えています。

一方で、参加者が増えたことによりトイレや後半区間の給水といった運営インフラにはまだまだ改善余地が残りました。参加者の多くが再参加の意向を示していることを踏まえ、次年度はこれらの改善に重点を置きより良い大会運営を目指してまいります。

結びに、大会の開催にご理解・ご協力をいただきました遠軽町をはじめとする自治体の皆様、環境省・林野庁の皆様、協賛・協力各社の皆様、出店事業者の皆様、そしてボランティアの皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

239

MERRELL